へ13
2378
319

特遠13
2378
329

後帙 附言

此稗史舊本ハ目録五回あり因て今般その第一回より第五回まをを前帙四冊とし第四回第五回を後帙四冊とまを如今その目録の趣意ハ畧ぼ人ども昔の作風唯忠孝を專とし大ハ勧善懲悪を上旨とまをまバ古の隨少く乗るハ忍ぶず再刻孟陬の一弄物ハ備るをめて大観官君尊覧の上よろしく高評を冀ふのみ

弘化四年丁未孟春

板元 錦橋堂欽白

近藤
玄兵衛
辰目内記

来山
主膳
来山勘七郎

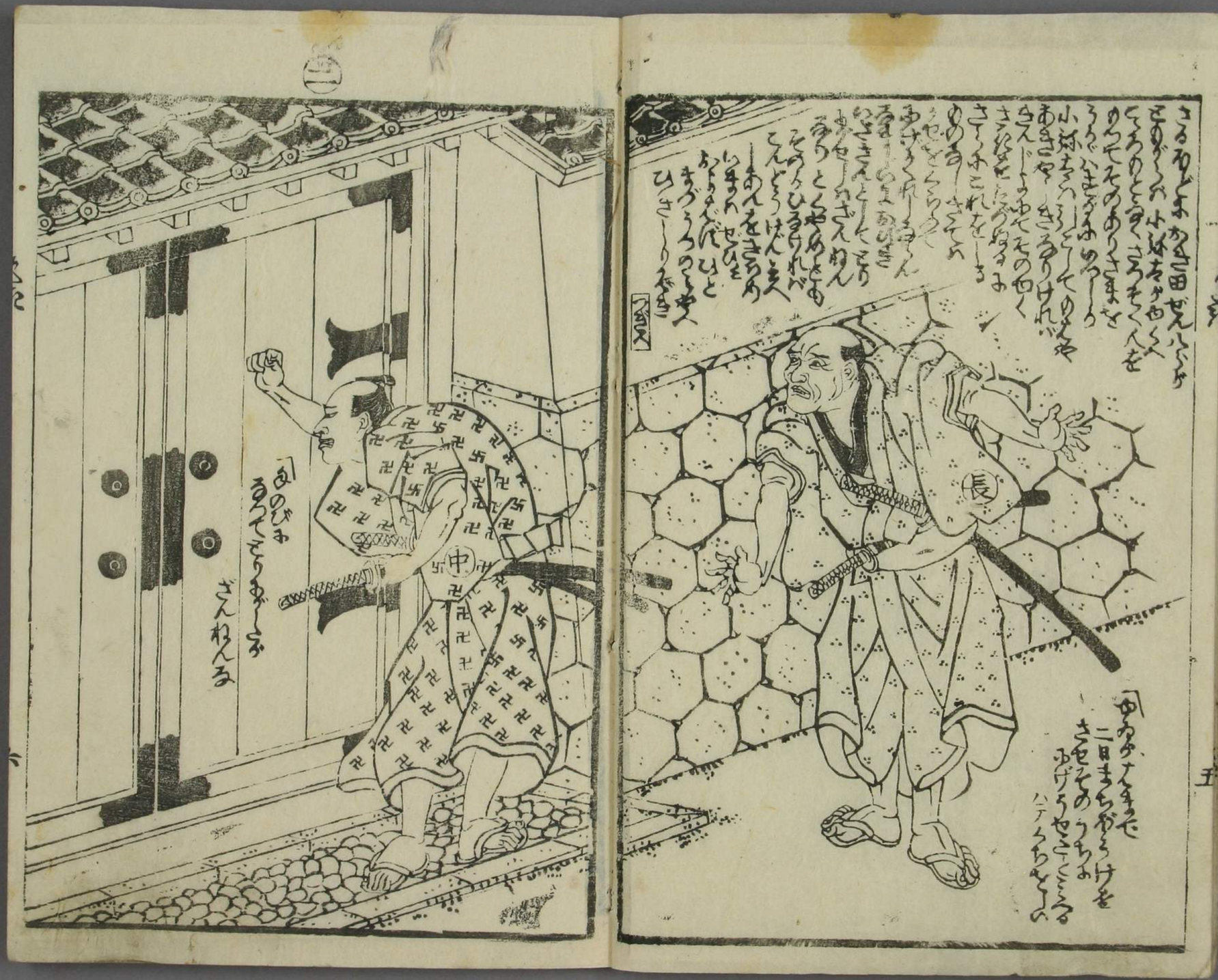
沖田源藏
梅田佐兵衛

来山友之助
畑井又兵衛

中田忠七
小田長左衛門

浦西小兵衛
中田七右衛門

川津忠左衛門
太田瀬右衛門
山下十兵衛
小諸團次


長
「ゆあみしてまつで
二日まちぶくろけを
さもそのうちの
ゆげうせさこころる
ハテムちもとこへ
中
「ゆのびゃ
るうてそうあーぐ
ざんれんる

つゞき
東
西
南
北

春風百草
東
山
中
天保十乙卯年正月
偶偶子書

豆州
青潮楼
修善寺

八犬伝宇都宮韓

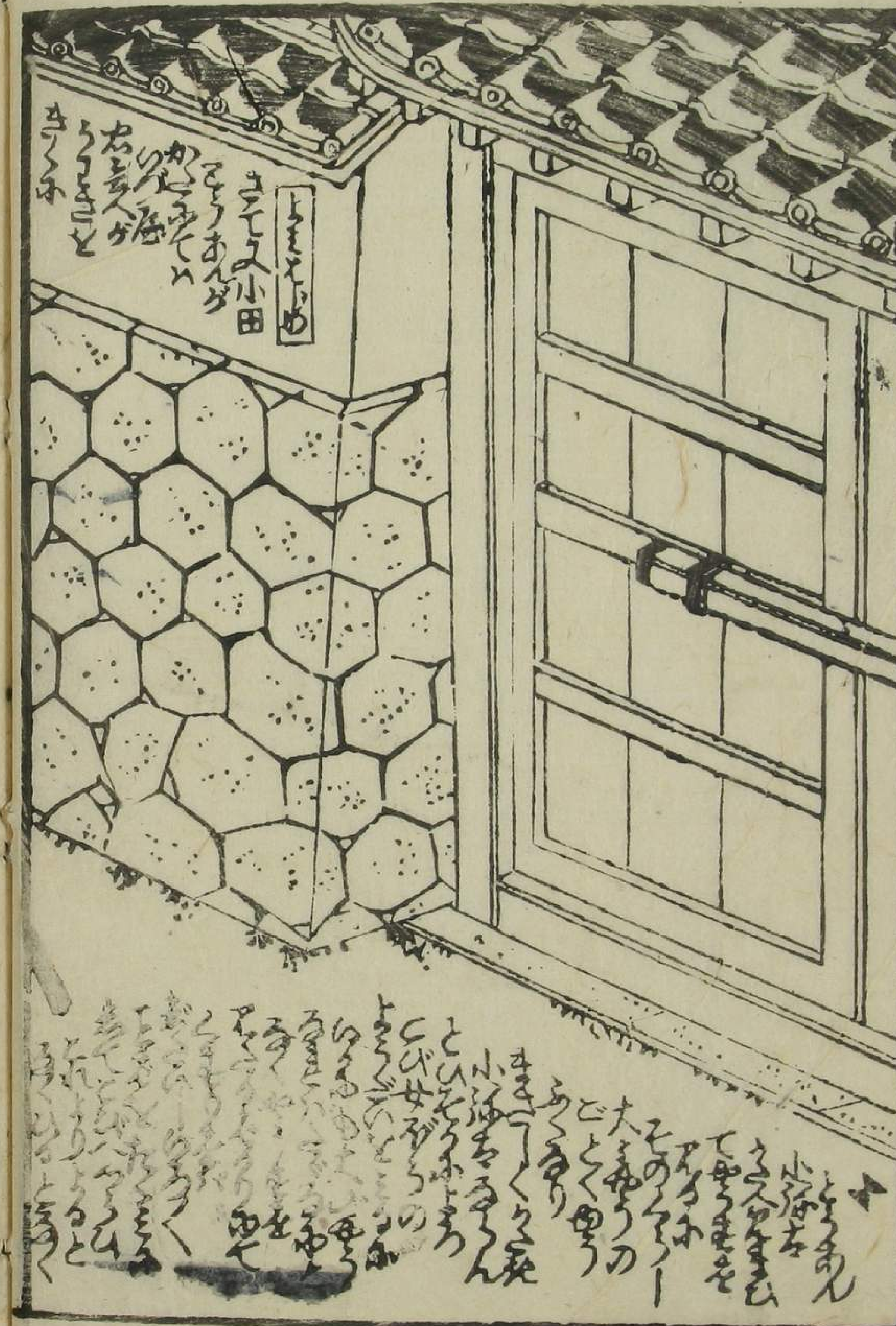
二編 下

弘化四年
丁未孟陽

豆州
青洲樓
修善寺

東
原
記

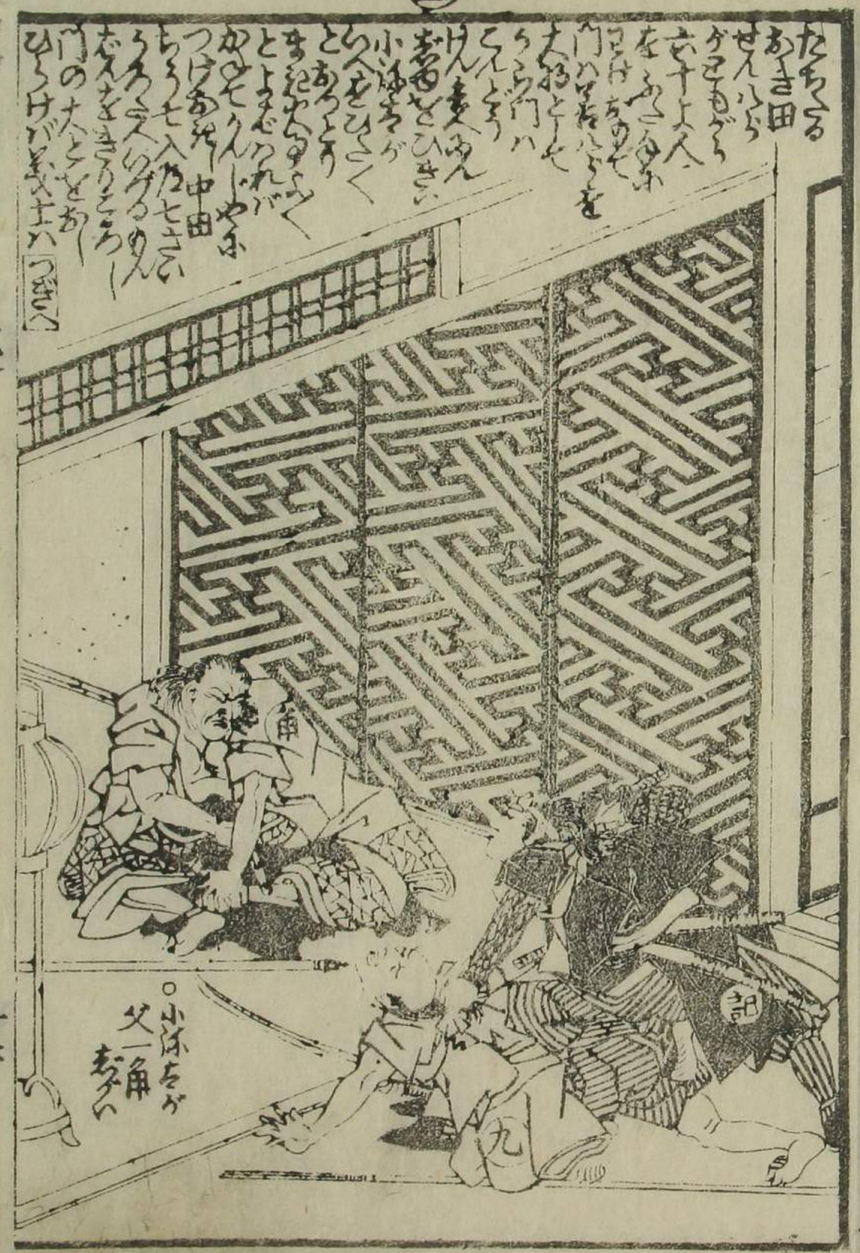
西
亥
酉
戌
未



つゞき　けちらせ入ゐたさいが
すくてくきまそとくくしりゐさりける
ときまれ天りんさこれん二月九日ま
りさりそ小紙ちぶ女ぶりう
じゆうきすでまあそうく
くけそがさうあいらの
きまれじゆうこさたうち
しるべーとーあを
きるめきえおよへしよ
てうぶとのりへいやと
ありそえんぐへうう
るといるうきーたーゆ
ちうぶんまりとまと
つりー　ち田せちるを
うるのくやへつりう
くとらうーん
しりけまバ
ゑいぶとゆ
ぐーたるま
ようくびさう
そくうるのくや
をりつそくー
りまくうさーて
まそきるる
までゐあぎが

やうちくるりそうぎと
よふもぎれるひてようふの
ゑまりかさびうふまちぶ
りくるかぶとづきえを
ゆんびかきうのーあゆのくを
ひりさけ今てされが
かれ田せんいら
十六ヶとん
どうたう目
ふい山ゆそ
井のとも
ぐうゑ士
まぐ下
二人まゆり
ゑうあい
せてゐ十
よふんゆきく
くゑ、たる
そのさそろく
小田でうあん
あいてーく
ふけきてり
さそとうるく
るるゆてそあれ
さくまろ小ゆそゲ

たう日
内記が
けらい小ゆろ
だん吹うち
ふ


四
○小沐左ヶ
父一角

左
右

小

九左ヱ門

九左ヱ門

源

歌川芳虎画

故人 傀儡子作

三州 青淵 修寺